

評価実施 令和 6 年度	事務事業マネジメントシート				
事務事業名	男女平等参画ステーション運営事業	主管部	政策経営部	主管課	市長室
政策名	1 人権・平和・男女共同参画				
施策名	基本施策2 女性と男性及び多様な性の平等参画社会の実現				
予算科目	会計 一般	款 2	項 1	目 9	事業コード 0104810
				法令根拠	・男女共同参画社会基本法 ・国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	期間限定複数年度 → (平成30年度 ~ 年度)	

事務事業の概要

事業内容	活動実績及び事業計画
<p>平成30年4月に施行した「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」の推進拠点として、同年5月に国立駅前に「くにたち男女平等参画ステーション(愛称パラソル)」を開設した。</p> <p>ステーションでは①男女平等参画に関する相談事業②普及啓発事業③情報収集・提供・発信事業④交流促進事業を実施している。</p> <p>①の相談事業については、他自治体の男女共同参画センターでは、女性を対象とした相談が中心となっているが、「くにたち男女平等参画ステーション」では性別にかかわらず相談に対応しており、男性からの相談も多いのが特徴である。</p>	<p>令和6年度の実績(令和6年度に行った主な活動を具体的に記載)</p> <p>1. 男女平等参画に関する相談事業(計2,153件) 2. 普及啓発事業(年間31回)</p> <p>3. 情報収集・提供・発信事業(情報誌の発行、SNSを活用した情報発信、出前講座の開催)</p> <p>4. 交流促進事業(他事業所の視察受け入れ、インターン、職場体験受け入れ)</p> <p>令和7年度以降の事業計画(令和7年度以降に計画している主な活動を具体的に記載)</p> <p>1. 男女平等参画に関する相談事業</p> <p>2. 普及啓発事業</p> <p>3. 情報収集・提供・発信事業</p> <p>4. 交流促進事業</p>

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的
<p>この事業を実施する経緯・背景・課題等(なぜこの事業を行うのか)</p> <p>固定的性別役割分担意識がいまだに解消されず、男女の地位の平等は依然として男性優位の傾向がある。また、LGBTQについては社会の認識は向上しているものの、アウティングなどの問題もあり取り組みの必要性は依然としてある。性別にかかわらず、全ての人々が自らの意思で自分らしい生き方を選択できる社会・地域の実現を目指す上で、市民一人ひとりの性別に基づく困難さへの相談等での個別的対応とともに、市民や事業者等の意識向上が必要であるため、本事業を実施している。</p>
<p>事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する)</p> <p>性別や性的指向、性自認に基づく困難な状況におかれた市民や事業者</p>
<p>この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道筋</p> <p>「くにたち男女平等参画ステーション」は国立駅から徒歩1分と、アクセスしやすい場所にある。立ち寄りやすい立地にあることで、対象者の裾野を広げることができる。土日祝日も開館しており、仕事等で平日に相談ができない市民の相談先としても期待できる。国立駅前に「くにたち・こくぶんじ市民プラザ」や旧国立駅舎のスペースを活用し、パネル展示やイベントを行うことで市民の男女平等参画意識の醸成に結び付く。</p>

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)	令和6年度 (決算見込み)(A)	令和7年度 (令和7年度目標値)(B)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	相談種別数	ア 種	5	5	5	5	5	0
	講座等(普及啓発)の件数	イ 件	20	41	51	51	51	0
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	市民数(4月1日時点)	ア 人	76,278	76,182	75,816	76,163		347
		イ						0
③ 成果指標 (事務事業の達成度を表す指標)	相談件数	ア 件	1,201	1,747	2,153	2,200	2,200	47
	講座等の参加人数	イ 人	95	328	399	400	400	1
④ 上位成果指標 (施策の達成度を表す指標)	女性相談件数	ア 件	1,005	1,319	1,549	1,560	1,560	11
	DV等を受けた時に、どこにも相談しなかった(できなかった)市民の割合	イ %		38				-38

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)(A)	令和6年度 (決算見込み)(B)	令和7年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)	
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2		0	
	延べ業務時間	時間	800	800	800		0	
	正規職員人件費計(C)	千円	3,200	3,200	3,200		0	
	会計年度任用職員従事人数	人					0	
	延べ業務時間	時間					0	
	会計年度任用職員人件費計(E)	千円					0	
	人件費計(F)	千円	3,200	3,200	3,200		0	
事業費	物件費・維持補修費	千円	15,491	15,501	16,347	17,186		0
	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰出金	千円						0
	その他(普通建設事業費・公債費・投資及び出資金等)	千円						0
	事業費計(G)	千円	15,491	15,501	16,347	17,186		846
歳入	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	地方債	千円						0
	その他	千円						0
	歳入計(H)	千円	0	0	0	0		0
事業費における一般財源 (G)-(H)		千円	15,491	15,501	16,347	17,186		846

2 評価の部(CHECK)

必要性評価	① 事業の必要性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？ 男女共同参画社会基本法を基盤とした社会の実現を目指すためには、市民生活と直結している地方自治体が旗振り役となり働きかける必要があるため。
	② 事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 十分有効的である ⇒【以下に理由を記入】 成果指標は目標を達成しているか？施策の目的に十分貢献しているか？成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ ジェンダー平等の意識啓発を行う所管として、男女平等参画ステーションにおいてイベントや講座を開催し、身近にあるジェンダーや生き方に関する様々なテーマで事業を行っている。参加者の年齢層は10代から70代と幅広く、市民の交流の場としても機能している。SNSを活用し意識啓発のための情報提供もっており、インプレッション数は年間18万回を超える数字となっている。常設相談では、様々な理由で生きづらさを抱える人々に寄り添った支援を行っている。相談件数は増加傾向にあり、うち9割は継続的な相談が必要な方であり、課題を明確にし庁内関係部署や外部の連携機関などにつなげている。相談者が抱える課題や不安はすぐに解決できるものばかりではなく、継続的な相談支援を行う中でエンパワーメントの視点を持ち、相談者に伴走した結果であると評価できる。一方で、潜在的な対象者に対しどのように情報を届けるかが課題である。また、ステーションからの情報発信業務については、市民をはじめ様々な方に情報を届ける必要があり、LGBT等性的マイノリティの周知・理解促進等に寄与する効果的な発信手法を検討していく。
効率性評価	③ 事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 十分効率的である ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)さらなる歳入を確保できないか？やり方を工夫して延べ業務時間数を削減できないか？成果を下げずに外部委託できないか？ 令和6年度の常設相談の件数は1,979件で、前年度に比べ386件増加した。年々相談件数が増加しており、継続相談者の相談時間を見直したり等、工夫をして実施している。現在、常勤2名、非常勤6名(週1~4日勤務)で対応している。相談内容は多岐にわたり、生き方や性別について、仕事や家庭の悩み事など、幅広い内容となっている。一部では、相談員を中傷するような相談者もあり、対応に追われることで、本来の相談業務や啓発事業に支障をきたしている。相談員のメンタルヘルスを守り、質の高い相談対応をするためには、研修やカスタマーハラスメント対応など、担当部署としてのサポートが必須である。
	④ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 全ての市民に開かれた窓口であることを周知している。また、様々な世代の方が情報を得やすいようにインターネットや、情報誌等の紙媒体、相談カードを店舗等へ配架するなど工夫している。
⑤この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか？)		
イベントへの参加者からは「様々な境遇、年代の人たちの話を聞く良い機会となった。」「普段のコミュニティではなかなか聞けない意見を、聞くことができた。」「参加者に男性が多いのが驚きだった。」などの意見が寄せられている。		
⑥この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか？		
講座は、毎回テーマがよく練られており、気構えせずに参加できる内容が多い。参加者からも評価は高く、本事業がジェンダー平等推進の大きな原動力となっている。啓発の手法に工夫の余地はあるものの、これまでに培ったノウハウを生かし、成果向上が期待できる。また、約2,000件の相談について、必要に応じて庁内の女性相談や福祉、子育て支援部署と双方向に情報連携しており、庁外の相談機関としての役割が十分果たされている。		

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	開設7年目となり、相談の総件数は初年度の7.6倍と高止まりの状況。相談者に丁寧に寄り添い、質の高い相談対応が提供された。小中学校や大学、企業への出前講座、研修を年間12講座実施し、好評を得た。一橋大学との連携や、インターン生の受け入れも積極的に行っている。一方、相談件数の増加に伴い、相談員の人件費、物価高騰による事業費について事業者から予算増の要望が出ているが、十分な対応ができていない状況にある。
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善策を検討・実施する ⇒【以下に具体的に記入】 <input type="checkbox"/> 現状維持(担当課評価がすべて適切である場合)		
有効性改善	【改善策】 相談件数、講座等の参加人数ともに増加している。市民ひとりひとりの意識向上を目指し、情報発信の仕方を工夫し、啓発事業に力を入れていく。	【改善策を実施した場合の効果】 全ての人々が自らの意思で自分らしい生き方を選択できるようになるという事業の目的を達成することができる。
効率性改善	【改善策】 相談者に影響が出ない範囲で相談業務の効率化を行い、相談事業と啓発事業の配分を見直すことでより効果的な事業実施が見込まれる。	【改善策を実施した場合の効果】 限られた予算の範囲内で、啓発事業等の効果を上げることができる。
	【改善策】	【改善策を実施した場合の効果】
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		
・庁内や他機関からの認知度を高め、連携を深めることで支援に奥行きを持たせる。 ・アンケートやインタビュー等を用い、事業の効果を可視化し、更なる課題の抽出を行う。 ・SNSやWebを活用し、本事業が目指すものを地域に発信していく。		
(6) 令和8年度予算編成に向けて		
【事業の方向性】	【取組方針】	
継続	現状の成果を維持するため、引き続き年間2,000件程度の相談対応を実施するが、相談対応の効率化を進めること等により、出前講座や研修等の啓発事業を充実させることのできる体制整備に向けて取り組むとともに、より効果的・効率的な運営のあり方について検討を進める。	
【予算の規模(R7比較)】		
現状維持		